

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0392900031
法人名	株式会社 信樹会
事業所名	グループホーム 城山の杜
所在地	岩手県上閉伊郡大槌町大槌第15地割5-1 (電話) 0193-42-5750

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	4月14日

【情報提供票より】(21年2月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 10 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	11.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	280 円	昼食	400 円
	夕食	320 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	9 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	69 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道又内科小児科医院、小松歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道45号線を北上、城山トンネルを過ぎ、大槌川の交差点を左折、大槌小学校後方の閑静な新興住宅地に(株)信樹会が所有する1,000坪の敷地に、平成19年6月併設のデイサービスと共に「一丁目」「二丁目」の呼称で、2ユニットのホームを開設された。利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安心、安全、衛生を図り、家族、地域との連携を密にするという基本理念をモットーに、併設のデイサービスとの交流も盛んに行い、自然環境をフルに活かした非常に明るい賑やかなホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	スペース等のこともあり、利用者と職員と一緒に食事を取っていなかったが、その後工夫され、自然なかたちで職員も介助をしながら一緒に食事を取るよう心がけている。研修については、既に年間計画を立てて受講しているが、今後は特に介護職員の外部研修に力を入れる予定である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が個別に記入したものを、介護支援専門員がまとめ、仕上げた。職員との面談によるが、大変素直に真摯な姿勢で全員取り組んでいる様子が伝わってきて、印象的であった。更なる発展に期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	評価の取り組みに関しては、これまでは話し合われていないが、医療連携加算の導入についての検討や入居者の暴力についてなど、運営上の課題などについても話し合われている。今後は消防や警察などの出席を促して、防災などの幅広い話題も期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	介護支援専門員が、普段家族と話し合う中で、出来るだけ聞きとるように心がけて、その内容を全体で話し合い、改善に繋げている。またホームで開催している家族会で、意見等を出していただくように呼びかけも行なっている。意見箱も玄関に用意してある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元は新興住宅地なため町内会が結成されておらず、地域との繋がりが取りにくいこともあり、不利な面もあるが、ホームの積極的な働きかけで、少年団や老人会が訪問してくれたり、近所の方からの野菜の差し入れ等もあり、自然な付き合いがなされている。防災訓練等もホームからのチラシ配布等の働きで近隣の方々が応援に駆けつけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は運営者が中心となり、管理者、介護支援専門員が話し合い開設前に制定している。基本となる理念3項目と、それに基づいた運営目標5項目が定められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事務室や玄関に掲示し、運営理念5項目は職員の名札の裏に書いてあり、いつでも見れるようになっている。しかし契約書、重要事項説明書、パンフレット等の書類には基本理念は記されていない。朝のミーティング時に唱和を行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	節分に野球少年団の子供と父兄が来て、一緒に食事をしたり、老人会の人達が来たりしている。また、近隣の方が野菜を持って来る等、自然な付き合いが出来ている。地元には町内会がない為に、更に積極的な地域との繋がりを深める為の取り組みを検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員に記入してもらい、介護支援専門員がまとめて仕上げた。前回の外部評価で期待された昼食を職員も一緒に食べることで年間研修計画による受講については、既に改善され実行されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでは評価の取り組みに関する事は、話題にしなかったが、医療連携加算についてや、利用者の暴力についてなど、運営上の課題について、主として話し合われている。次年度からは消防、駐在所等の出席も頂き、防災など幅広い話し合いを持ちたいと考えている。運営推進会議の記録者を固定化し、話し合いの内容が整理され、より一層会議の持つ役割を明確にしていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に月一回参加する他、困難ケースの対応方法等の相談で、随時、包括支援センターや町の介護保険係などに相談している。「行き来」のうち「行き」は問題ないが、「来」(※来て頂く)の方に力を入れて、次年度は働きかけるつもりである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの広報誌や利用者ごとの担当者が記入する「城山通信」を毎月家族に送付し、利用者の生活状況を伝えている。必要があれば随時、電話での報告もしている。預り金は領収書を送付し、面会時に出納帳の確認がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を作り、家族同士の集まりの場で、意見を出せるようにしている。また、介護支援専門員が、普段、家族と話し合う中で、出来るだけ(意見等を)聞き取るように心掛け、その中で捉えた事柄を全体で話し合い、改善に繋げられるような取り組みが行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2つのユニットは一体的に運営されており、併設のデイサービスとも日常的に交流がある為、全職員が顔馴染みとなっており、職員の異動による影響は少ない。これまで離職者があった時の配慮等は特に行なわれていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は今年度からは年間計画を立て、計画的に取り組むが行なわれている。外部研修は、今年度、介護支援専門員が交代したこともあり、積極的に研修に出席したが、介護職員の研修参加が少なかった。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や沿岸ブロックのグループホーム協会の研修会へ、運営者と介護支援専門員が出席し、交流が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用(入居)に際して、訪問による面談、ホームの見学を行なっている。利用(入居)に不安がある方で、併設のデイサービスを利用してホームにも遊びに来るようにして徐々に慣れてから、利用に繋がったり、利用(入居)後1週間程度家族と一緒に泊まったりした方もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	団子作りやくるみ拾いなど一緒に行き、利用者からも色々教えてもらい、その都度、感謝の言葉もかけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートに沿った聞きとりや、特に利用者の担当職員が日常の会話の中で、本人の気持ちや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとの担当職員が本人と家族の意向を確認し、その内容をもとにして担当職員と計画作成担当者が話し合って介護計画が作成されている。対応が難しい利用者の場合は、併設のデイサービスの相談員等も話し合いに入っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは、1.5ヶ月ごとに、評価は3ヶ月で行ない、状況により介護計画の変更を行っている。その他、変化があった際は、その都度話し合い、対応方法の検討が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに入居した後も併設のデイサービスに気軽に行くことが出来、馴染みの職員や利用者と一緒にカラオケなどを楽しんできたりしている。家族等が利用者の様子を見たい時には、一緒に居室に泊ったりもしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の約半数は、希望により利用(入居)前のかかりつけ医に継続して受診している。通院介助は、ホームの職員が対応し、医師との連携を図ることが出来るようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、終末期の方を1名受け入れており、家族や主治医との話し合いを行い、職員全体での話し合いも行なわれている。今後の重度化対応については、口から食べ物を摂取出来るうちはホームで支援したいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導の声掛けが、他の人にも普通に聞こえるような声の大きさで行なわれることもあるとのことである。調査員訪問時、食事中に大きめの声でスタッフが利用者 に接する場面も見受けられた。記録等の書類は事務所内で管理されている。	○	利用者への声掛けの仕方や声の大きさについて、内容や状況等に合わせた配慮が必要と感じられた。研修会や現場での指導などにより適切な声掛けがなされるようになる事を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で、どのように過ごしたいか聞き、その時その時の要望にも出来るだけ業務を優先することなく対応するように心掛けた対応がなされている。起床時間もその時の要望で遅くなって起きる事もあり、それに合わせて食事を配膳する等の対応が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事を取るよう心掛けているが、実際には介助を優先する為に、職員は揃って一緒に食卓につくことは難しい状態である。食事の準備や片付けには、女性利用者が積極的に参加している。併設のデイサービスの利用者の昼食もグループホームの職員と利用者で作っている。アンケートにより好みの食べ物などの把握もなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、主に月・水・金曜日の13時30分から15時頃までに行なわれ、一日に4人程度の方が入浴している。火曜日・木曜日でも希望があれば対応している。入浴を嫌がる方にも出来るだけ週に1回は入浴して貰えるように、工夫しながら働きかけが行なわれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや会話の中で、生活歴等の把握に努め、植木の剪定を役割にしている方、畑仕事をする方、好きな編み物や草取りをする方等、その人に合わせた出番を作ったり、楽しみを持てるようにしている。調査員訪問時は、女性の方は活動的に過ごしていたが、男性の方はじっと座っている方も見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町の催し物に出かけたり、行事で外出したりしている。近所の散歩などは利用者が行きたい時に支援出来るようにしている。タクシーを利用して、一人でお墓参りに外出してくる方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人で外に出る方への対応が難しく玄関に鍵を掛けていたが、最近は体力低下により、出ることが無くなり鍵を掛ける事は無くなった。現在は、夫が妻の暴力から逃げるために、自ら希望して自分が寝ている間自室に鍵を掛けてもらっている方がいる。	○	ご本人が希望して、妻が部屋に侵入しないようにするために鍵を掛けている事については、抑制とは異なる事だが、別の方法も更に検討してもらえる事を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災想定訓練を年2回、地震想定訓練を年1回それぞれに開催し、利用者も参加して行なわれている。火災想定訓練には消防署も参加している。チラシを用いて、近所の方に協力を依頼し、3人の方が訓練にも参加していただき、地域の協力を得られるようになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認と記録は毎食行なわれている。栄養バランスの確認は、現在は行なわれていないが、町の栄養士等にお問い合わせ出来ないか包括支援センターに依頼中である。本人の歯や、飲み込みの状態に合わせて刻み食や粥を提供し、食べやすいように工夫した支援がなされている。	○	栄養バランスの確認については、現在実施方法を検討されているところであり、実施に繋がるように期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの職員で利用者を把握出来るようにと考え、ホールのユニット間にある仕切りパーテーションを外し、全体を1ユニット化してケアしている。利用者もパーテーションで仕切ると「暗く狭くなる」と話され、現状の方を好まれているとのことである。ホールにはソファが数箇所置かれ、ゆったりと座って過ごせるようになっていく。玄関には花が飾られている。	○	職員が見守りやすいからという効率論ではなく、小規模で馴染みの人間関係の中でケアを行なうというグループホームケアの基本に立ち返り、また設置基準等の解釈も勘案して、各ユニットのあり方を再検討していただく事を要望する。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物を持ち込んでいただくように働きかけている。多くの物を部屋に備え、ご自分なりの部屋にしている方もいた。物に対するこだわりが無い方も多く、使い慣れた物などを持ち込む事は少ないとのこと、ほぼベッドだけを置いている状況の方もいた。		